

笹津 備規 (Masanori SASATSU)

東京薬科大学 (Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences)

平成24年度日本薬学会教育賞を受賞するにあたり、これまで私が関与してきた6年制薬学教育について、お話をさせていただきます。

平成12年当時、なかなか結論が出なかった薬学教育6年制問題を進展させるために、日本私立薬科大学協会は、当時の昭和大学薬学部長の富田基郎先生に「薬剤師養成モデルカリキュラム」を作成するように依頼いたしました。関東の10大学の代表が作業部会委員となり、平成12年8月から作業が始まりました。一年後の平成13年8月に、日本私立薬科大学協会薬剤師養成カリキュラム検討委員会から「薬学教育モデルカリキュラム(案)」が提示されました。私は最初の10人の作業部会委員として参加させていただきました。

この「薬学教育モデルカリキュラム(案)」の提示に呼応して、同年9月、国公立大学薬学部長会議教育部会から「薬学モデル・コア・カリキュラム(案)」が提示されました。この両案のすり合わせ作業をするために、同年12月に、日本薬学会が主催する「薬学教育カリキュラムを検討する協議会」、本協議会の代表は市川厚先生(現在、武庫川女子大学薬学部長)でしたので、通称市川協議会が発足いたしました。市川協議会は平成14年4月に「薬学教育モデルカリキュラム(案)」をまとめました。同協議会はこのモデルカリキュラム(案)を薬系46大学(当時)、ならびに関係諸団体に提示して広く意見を求めました。全国から寄せられた大量のご意見を整理した結果として、平成14年8月に「日本薬学会 薬学教育モデル・コアカリキュラム 薬学教育実務実習・卒業実習カリキュラム」が発表されました。私はこの協議会にも、協議会メンバー、ユニットチーフとして参加させていただきました。また、「薬学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 実務実習モデル・コアカリキュラムの作成に関する小委員会・作業部会委員」として、平成16年2月に発表された「薬学教育の改善・充実について(最終報告)ー実務実習モデル・コアカリキュラムー」の作成にも参加させていただきました。この薬学教育モデル・コアカリキュラムを普及するために、日本薬学会を中心として全国の薬学部・薬科大学の教員を対象として「薬学教育者ワークショップ」が展開されました。私は、この薬学教育者ワークショップにも、平成13年からタスクフォースとして参加しております。

平成16年には、学校教育法および薬剤師法が一部改正され、平成18年の4月から6年制の学生が入学いたしました。このため平成22年に開始される長期実務実習に向けて「薬学共用試験の導入」が急務となりました。私は平成17年から、故工藤一郎昭和大学薬学部長に協力して「薬学共用試験センター」の立ち上げを行いました。

平成20年になると、6年制薬学教育の卒業生に対する薬剤師国家試験が問題となってまいりました。そこで厚生労働省は、平成21年度に厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)「薬学教育6年制に対応した国家試験の円滑な実施のための問題作成の在り方に関する研究」の研究会を設置いたしました。本研究会は平成23年3月に、研究総合報告書としてモデル問題を発表いたしました。私は主任研究者として、モデル問題の取り纏め役を務めさせていただきました。

6年制薬学教育に最初から関与してきた者として、これまでの経過をお話しさせていただきます。